

竹島、硫黄島での離島実習を終えて

左右田美樹

今回、離島実習というものに参加させていただいて、本当にいい経験になったと感じました。さらに、幸運なことに、私たちは2つの島を回ることができたので、それぞれの特色、違いを知ることができ様々なことを知ることができました。

鹿児島島の港からの出発の朝、まず、人口の少ない島に行ったことがない私はいろいろ想像を膨らませ、すごく楽しみな気持ちを持っていました。しかし、反面、そのような場所での治療がどのように行われるのか、実習として、今回自分は何かを体得して、少しでも役に立つことができるのだろうかという不安も持ち合わせていました。

竹島は船で3時間で到着することができる割と本島に近い島でした。

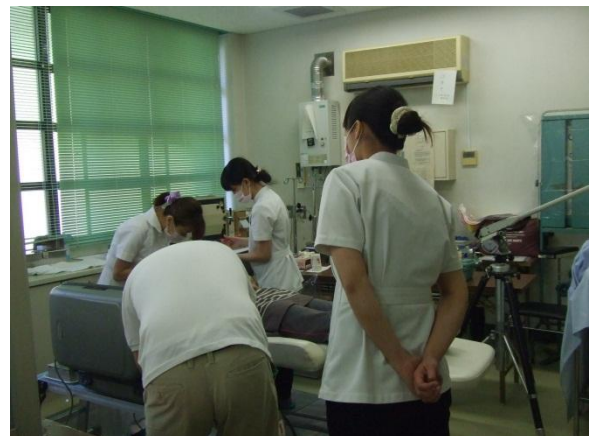
竹島に到着して、全員で協力しながら荷物を診療所に持ち運び、その後宿ですぐに着替えを行い、診療がスタートしました。



診療車～コジカ号～



竹島の診療所



竹島での診療の様子

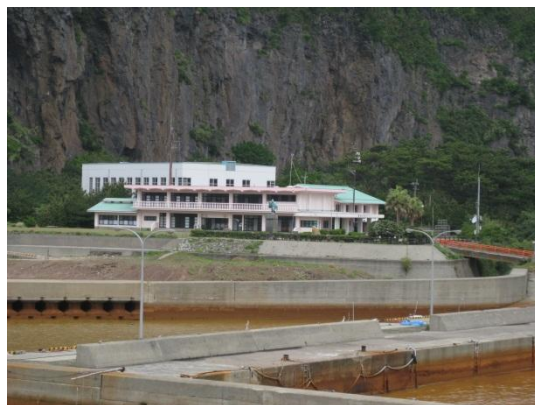
診療は、自分が思っていたよりも、多くの患者さんが来院され、気づいたら診療時間があ

っという間に終わっていました。診療内容は、齶蝕処置が中心でした。2日目は学校検診が行われました。齶蝕を持ち合わせているお子さんもいて、そのまま親御さんの許可が得られれば、治療に取りかけられるのは離島巡回診療ならではの利点であると感じました。また、竹島の2日間の検診を通して、仲良くなった子供さんと、空き時間で遊ぶのがとても楽しかったのを覚えています。

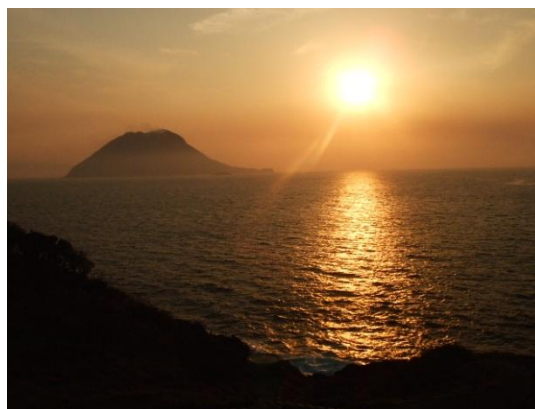
3日目は硫黄島へ移動しました。竹島-硫黄島間はなんと船で30分。硫黄島ではすぐに学校検診が行われ、竹島と同様に治療がなされていきました。硫黄島での診療では、義歯の破折などの補綴的な治療もあり、3日間を通して、様々な治療現場を体験しました。



コジカ号での診療の様子



硫黄島の診療



竹島から見た硫黄島

3日間全体を通して、患者さんがほとんどいない、という時はほとんどなく、それだけ離島巡回診療は必要とされているのだと感じました。また、歯科治療は、ポータブルのユニットとコジカ号、2台のチェアで進行していましたが、ポータブルのユニットは、それぞれの診療する場所に応じて、設置方法を工夫したり、色々考えて使用されていました。しかし、先生方、衛生士さん方は、最大限有効活用して診療を進めており、治療する人の手腕次第で最小限の器具でも治療はできるのだということを、身をもって体験したような気がします。

最後に、我々に貴重な体験を与えて下さった島民の皆様、丁寧に指導して下さった先生方、円滑な治療の進行に不可欠であった衛生士さん、歯科医師会の方々、本当にありが

とうございました。今回の貴重な体験は私を大きく成長させてくれました。これからの歯科医師となっていくにあたってこのような体験ができ、様々な治療の在り方があることなど多くのことを学ぶことができました。本当に心から感謝しています。

離島実習を終えて

4307100498 森久保 友紀

今回初めて離島診療の見学をしての感想は「経験できてよかった。」です。私の出身は鹿児島県ではないため、鹿児島の離島はおろか日本のどこかの離島に行ったこともなかったため、離島に行くことは今回が初めてでした。離島診療に行くかどうかを決める段階でも、希望は出したものの離島実習の内容があまりわからなかったし離島がどんなところかもわからなかったので、不安の方が大きかったような気がします。離島診療に行くことと決まってから出発の日まで一週間しかなかったため、出発するまでに心の準備をする暇もなく当日が来て、実際離島に行っても先生や衛生士さんや、器材のメンテナンスや運転をしてくださる野口さんの指示に従うのが精いっぱいであつという間に帰りの日になりました。

でもその中で、離島には歯科医がいないためこうして一つの島に半年に一回訪れる我々の診療を心待ちにしてくださる島民の方がいること、一緒に遊んでいると私が疲れてもまだまだ遊び足りないほど元気で可愛い子どもたち、フェリーで届く食材などが頼りで何をするにも自分たちの手で協力しながら行う島での生活など初めて知ることたくさんありました。診療では道具が十分でないために苦勞することもありましたが、考えて工夫しながら、協力し合いながら行う診療は先生との距離も縮まり、普段とは少し雰囲気も違つてとても良い経験になりました。離島実習では学生は診療の道具を出し入れするのを手伝ったり、診療では学校検診の記録を取ったり、普段学校で行う歯科治療のアシストと同様のことを行います。

診療の見学以外では、時間があればその島の観光にも連れて行ってもらえたり、たくさん患者さんが来てくれる日には見学といえど疲れるので、その後で格別においしいご飯を食べることができます。そうして過ごすうちに、始まる前は不安だった離島診療も帰る日には少し寂しくなりました。

こうしてたくさんの人にお世話になりながら、学生として離島診療に同行することは他の大学ではなかなか経験することのできない良いプログラムだと思います。そして歯科医になる上で、離島歯科診療の現実やすぐに歯科医院に行けない島民の方への診療の仕方を学ぶことは絶対に貴重で、良い経験になると思います。私は今回離島診療に参加することができて本当に良かったと思っています。竹島、硫黄島の方々、衛生士さん、鹿児島大学の方、先生方、ありがとうございました。

